

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400079	事業の開始年月日	平成18年12月1日
		指定年月日	平成30年12月1日
法人名	株式会社 ウィズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷		
所在地	(〒246-0006) 神奈川県横浜市瀬谷区上瀬谷町56-4		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年7月18日	評価結果 市町村受理日	令和1年10月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボランティア団体にホームにお越しいただき、演奏会等を開催し交流を図っています。季節の曲を演奏していただいたり、誕生月のご利用者様を歌で祝っていただいたりしています。毎月、少なからずレクリエーションを取り入れ、ご利用者様、職員とのふれあいの場を作っています。事故防止に職員が一丸となり「報・連・相」を motto に情報の共有を図りケアに努めています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年9月18日	評価機関 評価決定日	令和1年10月7日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の概要】

この事業所は、相鉄線瀬谷駅からバスで約10分、バス停から徒歩3分ほどの耕作地と住宅が混在する閑静な場所にある。建物は木造2階建てで、全館バリアフリー構造でエレベーターが設置されている。共有部分は窓が大きく採光が良く明るく、玄関脇の事務室からは、玄関やリビングを見渡すことができる。

## 【理念に基づいたサービスの実践】

「笑顔・気配り・安心」という理念を基本として、「接遇・行動指針」「虐待ゼロへの行動指針」「転倒骨折防止のための具体的行動・対策指針」などの指針があり、研修などで職員全員に周知・徹底している。日々のケアにおいては、毎月職員が話し合っテユニット毎、事業所全体のサービスの目標を定めてその実施に努めている。介護経験が豊富な職員が多く、ホームでは、いつも笑顔で明るい雰囲気をつくり、利用者の想いを把握してケアサービスに反映し、安心して安全な生活の場を提供している。

## 【手厚い看取り介護】

事業所では、医療連携体制加算や看取り介護加算に対応し、医師・看護師との24時間連絡体制をとっている。看取り介護に当たっては、家族・医師・看護師・管理者などで話し合い、家族や利用者の希望を重視して支援している。看取り介護計画は、日々の生活、延命処置、緊急対応などについて、きめ細かく要望を聴き取り、家族の精神的なケアについても配慮して作成し、実施記録を付けている。職員は、定期的に看取り介護に関する研修を受け、ケアについての振り返りを行って全員で情報を共有し、安らかに最期を迎えられるよう支援している。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		レ	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		レ	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		レ	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		レ	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	レ	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		レ	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		レ	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		レ	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		レ	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		レ	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		レ	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		レ	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践している職員が多数であると思う。それぞれに応じたケアがある程度出来ている。	事業所開設以来の理念は、「笑顔・気配り・安心」を基本として、いつも笑顔で明るい態度で接し、利用者の想いを察して、安全・安心な暮らしを営むように努めている。理念は事務室に掲示され、職員は入社時に目を通し、確認して印鑑を押すことで周知を進めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度運営推進会議は開催しているが、ご家族、地域住民共に、参加率は低い。地域の活動があるかも分からない為事業所としても参加は難しい。	町内会の回覧板で地域情報を得ている。地域の方から八幡神社の祭りの案内を受け、利用者が見物に行った。年2回トーンチャイムの演奏ボランティアが来訪し、利用者も一緒に演奏などして楽しんでいる。地域の体操レクに職員が参加したり、地域住民にホームの「いきいきリズム体操」への参加を呼びかけたり、地域との連携に務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流がほとんど出来ない為他へ活かせる場面がない。月1回の運動レクのチラシもご近所に配布しているが未だ参加者はいない状況である。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席されたご家族様からの意見・助言等は頂いているため会議等で話し合い、出来るだけ活かせる様に取り組んでいる。	運営推進会議は2か月ごとに開催し、参加メンバーは、家族、地域包括支援センター職員、管理者、計画作成担当職員などである。民生委員が参加することもある。事業所の活動状況や行事報告、意見交換などを行っている。誤薬について家族からの指摘があり、事業所の目標に掲げるなどして改善に取り組んでいる。町内会には、運営推進会議開催の度に参加の呼びかけを継続している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加は促しているが参加が得られない為関係は築けていない。レク等の参加も促しているが時間的に合わせるのが難しい。	瀬谷区高齢・障害支援課高齢者支援担当が窓口で、外部評価報告書などの提出の際に情報交換をしている。利用者全員が、瀬谷区認知症高齢者はいかいネットワークに登録している。近隣の、防災協定をしている介護施設との合同避難訓練に、市の介護事業指導課職員が立ち会っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置してケアに取り組んでいる。しかしながら、安全面から玄関・浴室は施錠している。職員研修等も行っている。	身体拘束等適正化委員会や虐待防止委員会を設置し、身体拘束防止や法人の虐待ゼロへの行動指針について、毎月話し合い、周知・徹底している。車椅子利用者は、日中はできるだけリビングの椅子に移乗してくつろいでいる。ユニット入り口は開錠し、開閉時は、ユニット内部に音楽が鳴る仕組みになっている。玄関は安全確保のため、家族に説明し理解を得た上で施錠している。利用者のふいな動きには、職員が付き添うようにしている。	身体拘束等適正化委員会が組織され、毎月開催されています。玄関の施錠について、適正かどうか検討することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置して虐待が無い会議で話し合いケアに努めている。少しの気付きも話し合いゼロに向けて職員研修を行っている。今のところ事案は無し。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無い為活用は出来ない。成年後見制度を必要とするご利用者様がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は十分に理解・納得していただいている。後日疑問点等が出た場合の連絡時もきちんと説明は行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の方への機会はないが、管理者・職員・ご家族様等の意見は協力機関等へ意見として伝え運営に反映させている。意見・苦情専用はがき等も設置している。	年2回の家族会には家族の8割近く、運営推進会議には家族が4～5名ほどが参加している。会議では、家族の様々な意見や要望を聴き取っている。前回は、服薬やケアについての指摘や要望があり、ユニット会議などで対応を検討し実施している。毎月家族に送る「上瀬谷通信」では、ホームのイベントの参加状況や利用者の生活の様子、医療の訪問診療などについて情報発信している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月初めのユニット会議・月末の全体会議を開き意見や提案を聞き、反映させている。場合に応じて面談等行っている。	職員は、毎月開催するユニット会議や全体会議で意見や提案を述べている。職員の提案で、利用者同士の相性を考慮して座席の位置を変更するなどしている。毎年1回以上、管理者による個人面談を行って、メンタルヘルスについて話し合ったり、悩みの相談に乗っている。面接では個々の職員の目標の達成度や次の目標について話し合っている。必要に応じて資格取得研修の参加支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞いたり、個別面談を行い働きやすい環境作りに努めている。場合によっては本部S V等と連絡を取りより良い方法を検討している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの技量が少ない職員には内外の研修や個別実践研修等を進めているが人員不足の為中々機会の確保は難しい。他業者様の研修等は検討中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会議等で他事業所のお話や意見は聞くことが出来る。特別の交流は無いが他事業所長と連絡を取り相談、良い方法等取り入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始段階で困りごとや不安を伺い、安心してご自分のペースで生活出来る様に関係づくりは行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や困り事はよくお話を伺い関係づくりはしている。職員が分からない時はすぐ事業所長に連絡を取りこちらから連絡相談に乗っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要なのか、話し合い最善の対応に努めている。3者の意見交換等行い今必要とされるケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の立場を考え少なからず寄り添える様な関係を築いている。悩み事は一緒に解決している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意見を大切にし最善の対応が出来る様に関係は築いている。ご家族様も協力的に通院・食事会等の参加をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人等と外出・食事・面会等関係性が保てるように支援を行っている。	利用者の以前からの知人や友人の来訪はよくあり、個室などに案内し湯茶でもてなして歓談してもらっている。本人への電話や手紙は取り次いでいる。家族対応で、墓参や通い慣れた美容室に行くこともある。アセスメントで把握した以前の生活習慣に沿ったケアサービスを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行いユニット合同でコミュニケーションが図れる様に努めている。散歩も身体機能が同じ様な方と出かけたりと工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等支援を行っている。「たまたま通りかかったので・・・」とホームに立ち寄られる方もおられる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様・ご本人様の意向を把握し職員会議等で話し合いそれに沿えるようなケアに努めている。	利用者の思いや意向は、入居時のアセスメントで把握したり、家族の訪問時に聴き取ったりすることもある。日々のケアの中でも、意向や希望を把握するように努めている。把握した事柄は、「スタッフ申し送り」と利用者個々の情報を記載した「利用者申し送り」に記載してスタッフ間で情報を共有し、カンファレンスで話し合っサービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様情報のファイルがあり、職員は必ず把握する様になっている。ご家族様にも生活歴等を面会時に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自身で出来る事は行って頂き職員間の情報の共有を図り現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・職員・ケアマネージャーと話し合い最善のケアが出来る様にしている。現状の把握、これからのケア等話し合い実践している。	介護計画は、アセスメントで利用者のニーズや課題を把握し、短期目標に沿った歩行訓練やアクティビティなどを設定している。計画の具体的サービス内容の実施状況は、個別の生活記録に記録している。毎月、居室担当職員の主導でカンファレンスを行い、3か月ごとに職員が話し合っって利用者毎の「サービス実行モニタリング表」を作成している。計画の見直しは、通常は6か月、状況の急変の際は随時実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に残し職員間で共有している。申し送りノートも活用し職員が日々の様子が分かる様に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で個々の状況を共有し最善のサービス・支援が出来る様に取り組んでいる。良い事案は取り入れ実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩でコンビニやブドウ畑、野菜畑を見たりして安全な生活を楽しんでいる。農家の方から野菜を貰う事もある。コンビニでは好きなお菓子やお飲物を購入したりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が納得した医療機関で受診して頂いている。関係性も保たれている。	連携医療機関の内科医の往診が月2回あり、利用者全員が診療を受けている。連携医療機関の看護師が毎週訪問して健康管理をしている。医師、看護師共24時間オンコール体制である。歯科医は月2回、歯科衛生士は週1回来訪し診療や口腔ケアを行っている。皮膚科等、その他の科目は原則として家族対応で、診療情報を家族から入手して個人ファイルに綴じ込んである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間の申し送りノート・ご利用者様の申し送りノート・医療関係の申し送りノートを活用し適切な医療が受けられる様になっている。小さな事でも伝達は怠らない様になっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医療関係者と密に連絡をとり早期退院に努めている。医療関係者との関係性も良好である。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族様・医療関係者と話し合いを行い、最善の支援が出来る様に取り組んでいる。	入居時に、「重度化した場合の対応に係る 指針」を家族に説明して同意を得ている。医師の判断で、終末期となり、家族が看取りを希望する場合は、「看取り介護 および加算についての同意書」を受け取っている。看取り看護マニュアル、看取り対応マニュアルを整備し、定期的に職員研修を実施している。看取りの際には看取り介護計画を作成し、それに沿った看取り介護を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はマニュアルを熟読し適切な対応が出来る様になっている。訓練等も取り入れて実践に繋げている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害・火災訓練は行っている。第一避難場所の確保も出来ていて、近隣施設と訓練等行っている。関係も良好である。	防災訓練は消防署立会いの下、年2回行っている。5月には、風水害想定避難訓練を実施し、防災協定を結んでいる近くの「介護老人福祉施設ラペ瀬谷」まで、職員と利用者が移動訓練を行った。事務室に、洪水ハザードマップの掲示があり、垂直避難の想定研修を行っている。10月には、夜間想定避難訓練の実施を計画している。備蓄は食料品や飲料水など3日分を備蓄品リストで管理している。	災害備蓄は、食料品や飲料水などは保有していますが、調理などに必要な熱源として、カセットコンロとガスボンベなどの備品も、ユニット毎に保有することを期待します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各委員会を設置。会議等で検討し不適切な場合は注意または面談を行っている。	「接遇・行動指針」を作成し、入社時研修で電話対応等のマナーを職員に周知・徹底している。事務室に指針を掲示して、いつでも目に触れるようにしている。個人の人格の尊重に基づき、声かけの仕方や誘導には気を配っている。訪問中、トイレや入浴についてさりげなく声かけや誘導をしている様子うかがえた。個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様にの意向を尊重し、自己決定出来る様に働きかけている。なるべく希望に沿う様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせてその人らしい生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな洋服・靴等選べるように支援している。化粧や髪型もご本人様の意向を尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の取り分けや食器拭き等一緒に行っている。食事スタイルも個々に合った形態・量で提供している。	食材は2日に1回専門業者が配達し、調理は法人の給食部職員が行っている。月1回配達される献立には、クリスマスやひな祭りなどの特別メニューがある。食事前に手の消毒をしている。利用者は盛りつけや後片付けを手伝っている。職員は利用者と同じ物を食べ、必要に応じて介助をしている。利用者の状況に合わせて、ミキサー食などを提供している。敬老会は寿司の出前を取り、誕生会は手作りのカップケーキなどを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・栄養バランスは個々に応じた量を提供している。職員が1日のトータル量を把握出来る様にしている。医療機関とも連携し栄養バランスを保っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアの声掛け・誘導を行い、清潔を保っている。介助が必要な方も同様である。訪問歯科医とも連携をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を支援している。習慣等を把握し、声掛け、誘導、介助を行っている。出来る事は極力、ご本人様に行なって頂いている。	トイレは、ユニット毎に3箇所設置されている。職員が、日中に清掃を行い夜間に消毒をしている。入り口には大きな字で「空室」「使用中」と書かれた大きなプレートを設置している。排泄チェック表や水分チェック表を参考に利用者の様子を見て、さりげなく声かけや誘導を行っている。日中は、できるだけトイレで自立排泄するよう支援している。夜間は睡眠優先で定時の声かけも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルト等お勧めしている。排便の間隔が開いたときは軽い運動を行ったり、主治医と相談し服薬にて予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の希望に添える様に支援を行っている。ゆっくりと入浴でき安全に楽しんで入浴して頂いている。機械浴での入浴も取り入れお互いに負担の無い様に行っている。	入浴は原則として週2回で、1日に各ユニットで3人入浴している。要望があれば回数などは柔軟に対応している。同性介助の希望にも対応している。体調などにより清拭も行っている。浴槽の湯はかけ流しにして、入浴後、清掃、乾燥、消毒を行っている。1階にはリフト浴があり、必要に応じて2階の方も利用している。浴室は、暖房器具や空調設備でヒートショック対策をしている。入浴剤を使って香りや色を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで休息、入眠が出来る様に支援している。個々の様子に合わせて日中も安心して休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを活用し、理解に努めている。主治医・薬剤師との連携を図り最適なお薬を服薬出来る様にしている。出来る限り処方数を減らす様に考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に合った物作りや貼り絵等を楽しんで頂いている。植物のお世話やおやつレクにて簡単な作業をして頂いたり、将棋で楽しんだりして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かける事はあるが、近場であり遠くまで出かけられる事はない。稀に買い物等があるがADL的に困難である。ご家族様も納得はされている。	天候が良ければ事業所の周辺を散歩に出かけている。車椅子の方も散歩に出かけている。日課としての散歩を介護計画に組み入れることもある。体調によりベランダで外気浴や日光浴をしている。個別対応で春の花見やコンビニに買い物に行っている。今年は、近隣の方にチラシをもらい近くの八幡神社に、職員と一緒に見物に行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の許可を頂き所持をされている方もおられるが、後のトラブル防止の為基本管理者が現金は管理している。必要時は使えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があればご家族様・友人等とお話はして頂いている。手紙も自由にやり取りは出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃は行っている。壁にその時々のお部屋の写真を貼ったり、季節のお花を飾ったりと居心地の良い空間作りを工夫している。不快を招くような物もない。	共有空間は清掃が行き届き、バリアフリー構造で、廊下や居室入り口は、車椅子の走行に十分な幅がある。リビングや階段室は、広く窓が大きく採光がよく明るい。利用者や職員が作った季節を感じる切り紙細工やイベントの写真などが掲示してある。一角にある厨房では、調理や配膳を行っている。1階には広いベランダが設置され、日光浴やお茶飲み会など多目的に利用できる。空調設備や加湿器、温湿度計が備えられ快適な環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲良いお友達と話ができる様に座席を職員・ご利用者様と考え変更を行っている。楽しく過ごせる様に支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様・ご利用者様と相談し、ご本人様を使い勝手の良い様に配置させて頂いている。好みの家具等も持ち込んで頂いている。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、防災カーテン、整理ダンス、ベッド、洗面台、ナースコールが常備されている。利用者は、寝具や衣類、テレビ、家族の写真などを持ち込み、それぞれに住み心地良くしつらえている。居室担当者が、衣類入れ替えや清掃などを支援し、整理整頓が行き届いている。表札は、花の名前の室名の上に各自の名前が書かれている。家族の同意を得て、安全のためにセンサーマットを使用している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・居室等安全に生活出来る様に配置等考えている。個々の力を引き出せる様工夫している。必要のない物は置かない様にしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみんなの家  
横浜上瀬谷

作成日 2019年10月15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害備蓄品としてカセットコンロ・ボンベの保有を考えていなかった。災害時に必要な物資を備蓄する必要がある。	災害時、必要最低限の物資の案を考える。その後購入し保有する。	各フロアーにカセットコンロ・ボンベを購入保有した。今後も必要な物は揃えて行く。	指摘項目対応済み。 今後も必要物資は購入する
2	5	ご利用者様の安全を考えての施錠であるが、それが適正なのか検討する必要がある。	運営推進会議等でご家族様に提議、意見を聞いて見る。	次回12月開催の運営推進会議・家族会議でご家族様と話し合う時間を作る。	3～6ヶ月位
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。